

DPC臨床指標

平成25年度 DPCデータ

当院は、平成23年4月よりDPC病院として運用を開始しております。そのDPCデータを利用して、7項目の臨床指標を作成いたしました。

情報を公開することで、当院の特徴や救急医療体制について、理解を深めていただくことを目的としております。

データの定義

<対象患者>

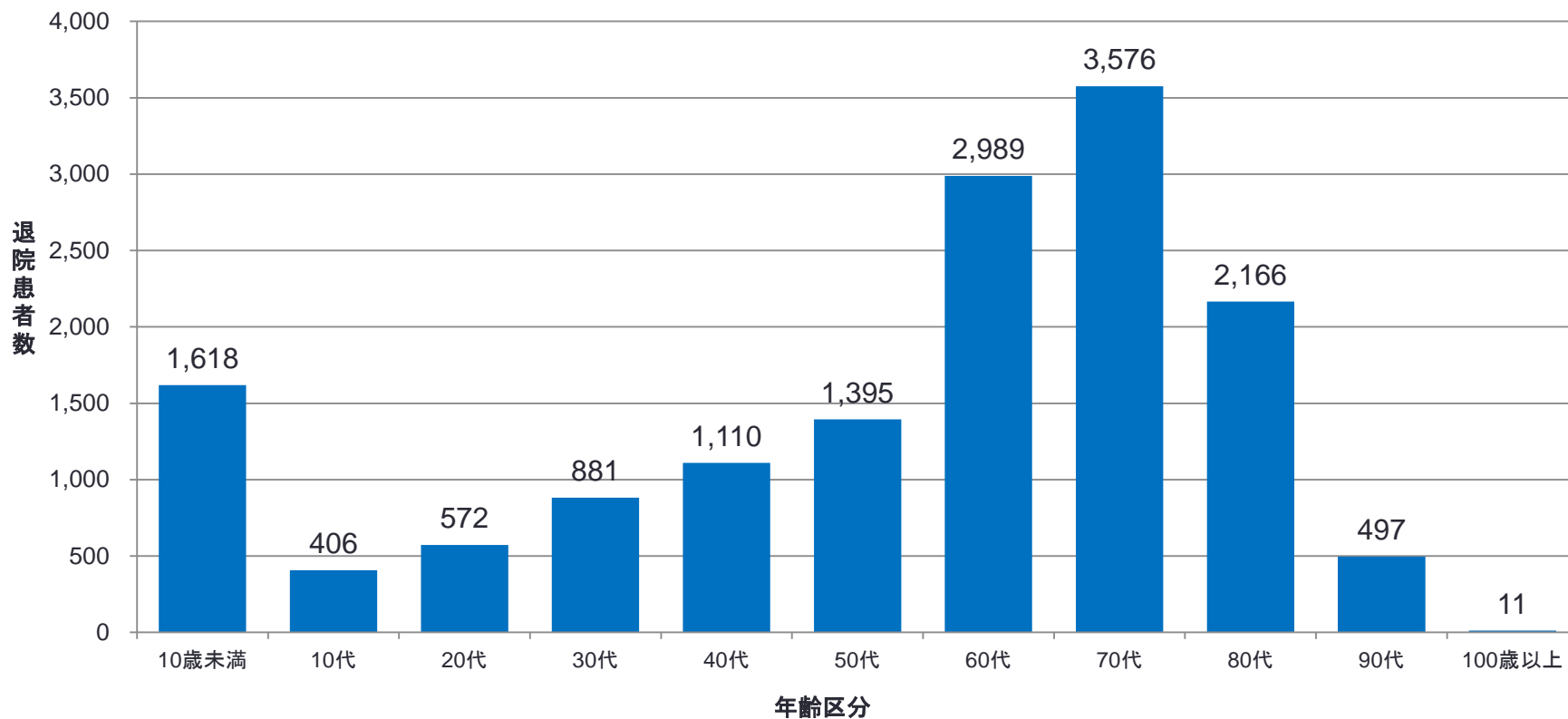
- 平成25年4月～平成26年3月退院患者
- 医科保険適用患者で、一般病棟入院患者を対象
(除外)

自動車賠償責任保険や労災保険、自費等の患者
緩和ケア病棟等の一般病棟以外の患者

<項目に関する定義>

在院日数	入院日から最終的な退院日まで
患者の数え方	一連の入院を1カウントとして集計 (一般病棟とそれ以外の病棟を組み合わせた入院も一連とする)
年齢	入院時点での年齢
手術件数	主たる手術のみをカウントし、従手術は対象外

年齢階級別退院患者数



当院は、西三河北部医療圏に位置し、この地域は今後、高齢者が増加し医療需要が増加する地域と考えられています。現在、当院の入院患者は60～80歳代の患者が多く、高齢者が多い傾向となっています。近年、当院の周辺に若い世帯が増えていることに合わせて、小児の患者も多くいることが分かります。

診療科別症例トップ3

<内科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等11あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	371	2.7	3.2	0.0%	66.7	有
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳以上) 手術なし 手術・処置等2なし	352	15.0	15.0	9.9%	75.9	無
040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし	289	24.5	22.6	28.4%	82.7	無

狭心症のカテーテル検査入院が最も多く、次いで肺炎症例が多くなっています。入院が長期化する肺炎については、他院と連携し、患者さんの状態に合わせた治療を提供しています。

<小児科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
040080x1xxx0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満) 手術・処置等2なし	354	4.9	5.7	0.6%	2.0	無
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 副傷病なし	189	5.6	6.4	0.5%	3.6	無
030270xxxxxxxxx	上気道炎	148	4.2	4.9	0.0%	2.4	無

肺炎などの感染症が多い傾向にあり、平均在院日数は全国と比較して短い状況となっております。今後も、地域のかかりつけ医と連携し、入院を必要とする患者さんを受け入れられるよう体制を整えていきます。

診療科別症例トップ3

<外科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
060160xx002xx0x	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア 副傷病なし	162	2.2	5.5	0.0%	61.8	有
060330xx02xxxx	胆嚢疾患(胆嚢結石など) 腹腔鏡下胆嚢摘出術等	87	6.4	7.3	0.0%	60.4	有
060150xx03xx0x	虫垂炎 虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの等 副傷病なし	86	4.2	5.7	0.0%	31.4	有

鼠径ヘルニア手術、腹腔鏡下胆嚢摘出術、虫垂切除術を多数行っており、平均在院日数は全国より短い状況となっております。それ以外にもがん患者さんも数多く見ており、消化器がん(胃、大腸、肝など)、乳がん手術にも対応しております。

<整形外科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	212	22.8	29.9	72.2%	80.7	有
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 副傷病なし	88	3.8	5.8	0.0%	48.8	有
070160xx01xxxx	上肢末梢神経麻痺 手根管開放手術等	49	2.7	6.1	0.0%	62.6	有

大腿骨骨折は高齢者の方に多くみられ、当院でも多くの患者さんが入院しております。当院で手術をしたのち、リハビリが必要な患者さんは、他院でスムーズに継続してリハビリができるよう、地域連携パスを活用しております。また、当院には手外専門医が常勤しており、手の手術も多数行っています。

診療科別症例トップ3

<形成外科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり	25	1.9	3.9	0.0%	67.1	有
070010xx010x0x	骨軟部の良性腫瘍 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等	21	3.8	5.7	0.0%	45.4	有
160200xx0200xx	顔面損傷(口腔、咽頭損傷を含む) 鼻骨骨折整復固定術等	17	4.1	6.1	0.0%	18.4	有

眼瞼下垂、顔面骨折、皮膚・軟部腫瘍の手術症例を多数診療しております。平均在院日数は、全国より短い状況になっています。また、外来で対応できる手術においては、外来でも取り扱っております。

<脳神経外科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS30未満) 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	72	22.8	20.6	40.3%	69.0	無
160100xx02x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 穿頭脳室ドレナージ術等 手術・処置等2なし 副傷病なし	71	13.0	11.7	5.6%	76.5	無
010030xx9910xx	未破裂脳動脈瘤 手術なし 手術・処置等1あり 手術・処置等2なし	41	1.6	3.0	0.0%	59.1	無

迅速な治療が必要となる脳出血を最も多く診療しており、ついで外科的治療が必要な慢性硬膜下血腫の治療を多く行っています。急性期状況を脱した患者さんは、地域の医療機関と連携し、他院で継続治療を行う場合もあるため転院率が高くなっています。

診療科別症例トップ3

<呼吸器外科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
040040xx01x0xx	肺の悪性腫瘍 肺悪性腫瘍手術等手術・処置等2なし	79	12.5	13.6	0.0%	67.6	有
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等手術・処置等2なし 副傷病なし	56	7.6	9.9	1.8%	32.1	有
040040xx9904xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり	20	8.3	14.4	0.0%	61.1	有

肺がん、気胸の手術症例を多く診療しています。また、3位の症例は肺がんの化学療法症例となっており、手術治療を行う前や行った後の化学療法症例も診療しています。平均在院日数は全国と比較して短い状況となっています。

<心臓血管外科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
050050xx0101xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 心室瘤切除術(梗塞切除を含む。) 単独のもの等手術・処置等1なし 手術・処置等21あり	27	22.3	25.2	0.0%	69.7	有
050163xx01x1xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 大動脈瘤切除術(吻合又は移植を含む。) 上行大動脈及び弓部大動脈の同時手術等手術・処置等21あり	12	33.6	33.7	8.3%	68.8	有
050080xx0101xx	弁膜症 ロス手術(自己肺動脈弁組織による大動脈基部置換術)等手術・処置等1なし 手術・処置等2あり	12	22.9	26.8	0.0%	61.7	有

外科的手術により改善が見込まれる虚血性心疾患や、胸部大動脈瘤、弁膜症の症例を多く診療しています。平均在院日数は全国と比較して短い状況となっています。

診療科別症例トップ3

<皮膚科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	64	8.4	12.1	1.6%	61.3	無
080020xxxxxxxx	带状疱疹	24	6.7	9.2	0.0%	57.4	無
080011xx970x0x	急性膿皮症 手術あり 手術・処置等1なし 副傷病なし	10	8.9	18.1	0.0%	56.4	無

急性膿皮症、また蜂窩織炎、带状疱疹の症例を多く診療しています。平均在院日数は全国と比較して短い状況となっています。膿皮症の場合、部位や重症度によって入院期間に差がでてきます。当院の皮膚科では四肢の膿皮症を中心に診療していることもあり、平均在院日数が短くなっていると考えられます。

<泌尿器科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1あり	205	3.0	2.8	0.0%	68.9	有
11012xxx020x0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術等 手術・処置等1なし 副傷病なし	125	5.1	6.1	0.0%	56.4	有
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	89	6.2	7.9	0.0%	70.0	有

前立腺の生検入院を多く取り扱っています。また、腎尿管結石や膀胱癌の手術症例も多く診療しており、手術は侵襲性の低い経尿道的手術を多数行っています。平均在院日数は全国と比較して短い状況となっています。

診療科別症例トップ3

<産婦人科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等25あり 副傷病なし	87	4.3	5.4	0.0%	67.2	有
120180xx01xxxx	既往帝王切開分娩 帝王切開術 等	73	9.5	10.1	0.0%	32.9	有
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術(腔式を含む。) 腹腔鏡によるもの等	60	7.2	6.7	0.0%	39.7	有

卵巣癌、卵巣腫瘍の手術症例を多く診療しております。また、帝王切開による分娩も多数受け入れています。平均在院日数は、全国と比較してほぼ同じ状況となっています。

<眼科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり両眼	247	6.4	6.5	0.0%	74.3	有
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり片眼	209	3.3	3.3	0.0%	69.3	有
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり片眼	44	11.5	11.9	0.0%	53.2	無

白内障や網膜剥離の手術症例を多く診療しております。白内障については、1入院で両目を行う場合と片目のみ行う場合がありますが、現在は片目での入院を多く扱っております。平均在院日数は、全国と比較してほぼ同じ状況となっています。

診療科別症例トップ3

<耳鼻咽喉科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	90	5.5	5.5	0.0%	37.6	無
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	83	7.1	8.3	0.0%	17.5	有
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	32	4.7	5.5	6.3%	60.5	無
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	32	7.2	8.0	0.0%	51.9	有

扁桃周囲膿瘍、急性または慢性扁桃炎などの扁桃の疾患、メニエール病などの耳性めまい、慢性副鼻腔炎を多く診療しております。平均在院日数は全国と比較して短い状況となっています。

<麻酔科>

DPCコード	名称	症例数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パスの有無
			自院	全国			
070350xx99xxxx	椎間板変性、ヘルニア 手術なし	6	1.8	9.5	0.0%	71.0	無
080020xxxxxxxx	带状疱疹	3	2.0	9.2	0.0%	40.0	無
070343xx99x0xx	■脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 手術なし 手術・処置等2なし	3	2.0	6.7	0.0%	75.7	無

神経痛などの慢性的に痛みにも効果のある麻酔の治療(神経ブロック)を入院治療でも行っています。入院期間は、通常1泊2日となっているため、平均在院日数は全国と比較して短い状況となっています。

病期(ステージ)別がん患者数

	Stage0	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発	総計
胃	—	72	32	20	34	7	21	186
大腸	3	46	47	44	39	14	23	216
乳	10	44	22	5	4	11	18	114
肺	—	54	9	25	71	58	41	258
肝	—	21	21	9	11	11	84	157
総計	13	237	131	103	159	101	187	931

罹患率の高い5つのがん(胃癌・大腸癌・乳癌・肺癌・肝癌)を病期(ステージ)ごとに集計したものです。医師が「がん(がん疑い)」と診断した時に1件とカウントされ、①がんの大きさや進展度、②リンパ節転移、③遠隔転移の有無によって病期(ステージ)が決定します。病期(ステージ)は数字が大きいほど「進行しているがん」と表されます。

病期(ステージ)が不明の症例は、上記の①～③に一つでも不明な項目がある症例を表し、不明な項目を明らかにするための検査入院症例も含まれています。

肺がんでは、病期(ステージ)が不明な症例が多くなっています。これは検査入院症例を多く取り扱っているためと考えられます。肝がんは再発しやすいがんであり、当院でも再発症例を数多く診療しています。

成人市中肺炎の重症度別患者数

	患者数	平均在院日数	平均年齢	性別	患者数	平均在院日数	平均年齢
重症度0	17	10.9	55.2	男	6	8.8	50.0
				女	11	12.1	58.0
重症度1	58	13.6	69.0	男	34	14.5	62.6
				女	24	12.3	78.1
重症度2	89	15.0	76.7	男	60	15.8	74.4
				女	29	13.5	81.3
重症度3	73	15.0	78.6	男	44	14.8	80.0
				女	29	15.2	76.7
重症度4	52	21.2	81.4	男	35	18.1	80.7
				女	17	27.6	83.1
重症度5	15	10.7	81.5	男	10	13.6	77.8
				女	5	5.0	89.0
不明	17	19.3	84.8	男	12	17.4	85.6
				女	5	23.8	82.8

※15歳以上の成人症例のみ計上

※重症度分類についてはA-DROP判定を使用

市中肺炎とは普段の社会生活を送っている中で罹患した肺炎のことを言います。高齢者では症状がはっきりしない場合もあり、できるだけ早期に適切な抗菌薬を適切な量と期間で投与する必要があります。「日本呼吸器学会成人市中肺炎診療ガイドライン」の重症度分類を利用して入院または外来治療の判断をしています。

当院では、「重症度2」の症例が最も多く、重症度が高くなるほど平均年齢も高くなっています。これは、重症度を判断する項目に年齢の項目があり、男性70歳以上、女性75歳以上の方が肺炎にかかった場合は、必ず「重症度1」以上に分類されることに起因しています。

脳梗塞のICD10別患者数

ICD-10	傷病名	発症日から	症例数(件)	平均在院日数(日)	平均年齢(歳)	転院率(%)
G45\$	一過性脳虚血発作および関連症候群	3日以内	21	5.8	73.9	0%
		その他	1	4.0	74.0	0%
G46\$	脳血管疾患における脳の血管(性)症候群	3日以内	0	-	-	-
		その他	0	-	-	-
I63\$	脳梗塞	3日以内	331	18.9	74.9	39.3%
		その他	22	11.8	73.0	18.2%
I65\$	脳実質外動脈の閉塞および狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	7	37.7	66.7	28.6%
		その他	62	7.6	69.9	1.6%
I66\$	脳動脈の閉塞および狭窄, 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	4	34.0	61.3	25.0%
		その他	11	6.9	56.4	0%
I675	もやもや病<ウイリス動脈輪閉塞症>	3日以内	1	19.0	43.0	0%
		その他	7	7.1	46.0	0%
I679	脳血管疾患, 詳細不明	3日以内	0	-	-	-
		その他	0	-	-	-

脳梗塞は、脳に酸素や栄養を送る血管が細くなったり、詰まってしまうことによって、脳が壊死または壊死に近い状態になってしまう病気で、治療が遅れると死亡したり、重い後遺症が残りますが、発症後早期に治療することによって、社会復帰できる可能性が高くなります。

当院は、西三河北部医療圏の基幹病院として、日本脳神経外科学会専門医4名(うち1名は日本脳神経脳血管内治療学会専門医)が常勤し、診断から治療まで完結できる体制を整え、救急的診療に力を注いでいます。

西三河北部医療圏内で脳卒中地域連携パスを整備し、地域の回復期病院や開業医とも密な連携体制を整えています。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<循環器内科>

内科については、手術を多数行っている3科のみ計上

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K549	経皮的冠動脈ステント留置術	206	1.3	6.1	1.5%	67.1	有
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術(心房中隔穿刺又は心外膜アプローチを伴うもの)	176	0.8	2.2	0.0%	62.4	有
K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術(その他のもの)	62	2.8	5.1	3.2%	57.1	有

循環器内科では、狭心症、心筋梗塞治療に有効である経皮的冠動脈ステント留置術や、不整脈治療に有効である経皮的カテーテル心筋焼灼術(アブレーション)を多数行っています。

<消化器内科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	113	2.7	14.6	2.7%	73.8	有
K654	内視鏡的消化管止血術	100	1.1	14.0	5.0%	67.0	有
K6152	肝動脈塞栓術 【血管塞栓術(腹腔内血管)】	93	1.5	9.7	0.0%	71.1	有

消化器内科では、胆管炎等に有効である内視鏡的胆道ステント留置術や、消化管出血に対する内視鏡的消化管止血術、肝癌治療の肝動脈塞栓術を多数行っています。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<腎臓内科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K610-3	内シャント設置術	51	8.9	19.2	2.0%	69.1	有

腎臓内科では、透析治療に利用する内シャントを設置する手術を行っています。

<小児科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K7151	腸重積症整復術(非観血的なもの)	5	0	1.4	0.0%	1.4	無
K300	鼓膜切開術	5	1.2	3	0.0%	1.8	無

腸重積患者に対する腸重積症整復術や、中耳炎患者に対する鼓膜切開が多く行っています。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<外科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K6335	鼠径ヘルニア手術	218	0.1	1.1	0.0%	51.2	有
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	144	1.7	4.8	1.4%	61.2	有
K7181	虫垂切除術 (虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	87	0.1	3.1	0.0%	31.6	有

ヘルニア手術や腹腔鏡下による胆嚢摘出術を多く行っています。その他にも、悪性腫瘍手術(消化器がん、乳がん)、血管外科手術(下肢静脈瘤手術、腹部大動脈瘤手術等)なども積極的に行っています。

<整形外科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K0461	骨折観血的手術(大腿)	174	2.0	18.6	61.8%	80.8	有
K0732	関節内骨折観血的手術(手)	73	0.6	4.0	12.7%	61.6	有
K0811	人工骨頭挿入術(股)	45	6.3	23.8	1.9%	81.2	有

骨折手術を多数行っており、中でも高齢者の方に多い大腿骨骨折の手術件数が多く行っています。継続してリハビリテーションが必要な患者さんに対して、他院と連携して治療を行っているため、転院率が高い傾向となっております。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<形成外科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K2191	眼瞼下垂症手術(眼瞼拳筋前転法)	19	0.0	0.9	0.0%	67.4	有
K0063	皮膚, 皮下腫瘍摘出術(露出部以外) (長径6センチメートル以上)	15	0.4	3.2	0.0%	46.9	有
K0053	皮膚, 皮下腫瘍摘出術(露出部) (長径4センチメートル以上)	11	0.7	1.6	0.0%	29.1	有
K333	鼻骨骨折整復固定術	11	0.9	1.2	0.0%	17.3	有

眼瞼下垂症に対する手術や、皮膚腫瘍切除術、鼻骨骨折に対する手術を多く行っています。

<脳神経外科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	84	1.1	14.4	9.5%	76.8	無
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	27	0.7	39.2	18.5%	61.7	無
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	21	8.1	70.0	4.8%	52.7	無
K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	21	5.3	10.5	4.8%	67.1	無

慢性硬膜下血腫の治療法には外科的手術が推奨されており、当院でも多数行っています。リハビリが必要な患者さんに関しては、他院と連携し継続してリハビリ治療が行えるよう努めています。また、脳動脈瘤に対する手術や脳腫瘍に対する手術も多数行っています。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<呼吸器外科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K5131	胸腔鏡下肺切除術 肺嚢胞手術 (楔状部分切除によるもの)	61	3.6	3.3	1.6%	33.0	有
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は1肺葉を超えるもの)	44	2.5	10.4	0.0%	69.6	有
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(部分切除)	26	1.5	7.1	0.0%	65.4	有

侵襲性の少ない胸腔鏡手術を積極的に行っており、特に若年男性に多い気胸の治療に有効な胸腔鏡下肺切除術が多くなっています。それ以外にも胸腔鏡下の肺癌手術を多数扱っております。

<心臓血管外科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K5522	冠動脈, 大動脈バイパス移植術 (2吻合以上のもの)	35	8.9	20.5	0.0%	69.0	有
K552-22	冠動脈, 大動脈バイパス移植術(人工心肺 を使用しないもの)2吻合以上のもの	20	7.9	17.7	0.0%	70.6	有
K5601=	大動脈瘤切除術(吻合又は移植を含む。) 上行大動脈 その他のもの	6	1.7	23.3	0.0%	72.7	有

冠動脈の閉塞や狭窄などにより心筋への血流が阻害され、心臓に障害が起こる虚血性心疾患に対して、冠動脈、大動脈バイパス移植術を多く行っています。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<皮膚科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術(単純切除)	20	0.4	1.3	0.0%	76.9	無
K0011	皮膚切開術(長径10センチメートル未満)	17	1.5	8.0	5.9%	50.5	無

植皮を要したり、術後の観察、安全な対応のため悪性腫瘍切除や皮膚膿瘍などを切開し排膿する皮膚切開術を多く行っています。また、皮膚科では外来で対応のできる状態の患者さんについては、外来でも手術を行っています。

<泌尿器科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K7811	経尿道的尿路結石除去術 (レーザーによるもの)	128	1.5	3.2	0.0%	57.1	有
K80361	膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術 電解質溶液利用のもの)	76	1.5	4.6	0.0%	70.0	有
K841-21	経尿道的レーザー前立腺切除術 (ホルミウムレーザーを用いるもの)	44	1.0	6.0	0.0%	70.5	有

経尿道的手術とは尿道から内視鏡を挿入し治療を行う手術のことを言います。近年、侵襲性の低い経尿道的手術が主流となっており、当院でも多数行っています。中でも、尿路結石除去術や膀胱悪性腫瘍への手術が多くなっています。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<産婦人科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術 (両側 腹腔鏡によるもの)	77	0.9	5.3	0.0%	38.9	有
K8982	帝王切開術(選択帝王切開)	70	2.2	7.0	0.0%	33.2	有
K877	子宮全摘術	58	1.0	8.3	0.0%	48.2	有

卵巣腫瘍(チョコレート嚢胞、卵巣嚢腫)、子宮内膜症に対する手術を多数行っています。治療については、患者さんの状態によって、侵襲性の低い腹腔鏡や子宮鏡手術を取り入れています。また、分娩リスクの高い患者さんに対する帝王切開術も取り扱っています。

<眼科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K28210	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合 その他のもの)	450	0.3	3.8	0.0%	71.9	有
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術(網膜付着組織を 含むもの)	103	0.2	8.0	0.0%	61.2	無
K2802	硝子体茎頭微鏡下離断術(その他のもの)	19	0.5	8.7	0.0%	57.7	無

白内障手術を多数行っており、中でも超音波によって水晶体を細かく破碎(乳化)して吸引する「超音波乳化吸引手術」を行っております。その他、糖尿病による網膜症の手術や、網膜剥離に対する手術なども行っています。

診療科別主要手術 症例数トップ3

<耳鼻咽喉科>

Kコード	名称(部位)	症例数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パスの有無
K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	87	1.0	5.1	0.0%	17.6	有
K358	上顎洞篩骨洞根治手術	22	1.0	5.4	0.0%	54.0	有
K347	鼻中隔矯正術	14	0.9	5.5	0.0%	39.3	有

何度も繰り返される口蓋扁桃の炎症に対して行う、口蓋扁桃手術を多く行っています。副鼻腔炎に対する内視鏡手術もナビゲーション等安全性の高いデバイスを用い、多数行っています。また甲状腺腫瘍を中心とした頭頸部腫瘍に対する手術も良性・悪性を含め多数行っています。

その他 臨床指標

DPC	傷病名	入院契機	患者数	請求率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	10	0.07%
		異なる	26	0.17%
180010	敗血症(1才以上)	同一	89	0.58%
		異なる	41	0.27%

医療の質向上のため、臨床上ゼロにすることはできませんが少しでも改善すべき項目として、4つの傷病名について公表しております。

【播種性血管内凝固症候群とは？】

本来出血箇所のみで生じるべき血液凝固反応が、全身の血管内で無秩序に起こる症候群です。早期診断と早期治療が求められる重篤な状態です。当院の請求患者数は、平均年齢は70.5歳。腎炎、敗血症などの感染症が重篤化し発症している症例が多数あり、その他にも基礎疾患に悪性腫瘍がある症例もみられ、入院後に発症しているケースもみられます。

【敗血症とは？】

病原体が全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晩死に至る疾患です。当院の請求患者は、平均年齢72.6歳。肺炎、腹膜炎、腎炎などの感染症が重篤化し発症している症例が多くみられます。

その他 臨床指標

DPC	傷病名	入院契機	患者数	請求率
180035	その他の真菌症	同一	2	0.01%
		異なる	0	—
180040	手術・処置の合併症	同一	54	0.35%
		異なる	8	0.05%

【真菌症とは？】

真菌が種々の臓器に定着することに起因する感染症です。当院の請求患者は、平均年齢70.0歳。

（副鼻腔真菌症）

副鼻腔、特に上顎洞というところある真菌が、体の抵抗力が弱った時に起こる病気です。普通の健康な大人に起こることは少ないですが、持病をもっている方、高齢の方に起こりやすい疾患です。

【手術・処置の合併症とは？】

手術や処置をしたことで起こる病態を指します。合併症は、患者さんの状態によって引き起こされる確率は様々です。臨床上ゼロにすることは難しいですが、細心の注意を払い対応しております。当院の請求患者は、平均年齢は58.6歳。手術・処置の合併症の請求患者のうち、術後の感染症が2割を占めています。